



洋書輸入協会会報

Vol. 31 No. 5 (通巻360号) 1997年5月

定時総会報告

1997年度定時総会は5月16日(金)午後2時30分から箱根湯本・ホテル河鹿荘〔富士の間〕にて開催された。

〔出席状況〕	出席	32社
	委任状	34社
	計	66社

正会員85社に対して上記のとおり過半数の出席を得たので、協会規約第5章30条に基づき総会は成立した。

高橋総務副委員長(丸善)の司会により開会、神田事務局長より1996年度中に以下の15会員が退会した旨の報告があった。

福本書院／白鷗洋書／郁文堂／神田教文館
紀伊國屋書店／メクレンブルグ商会／名著普及会
メイナード出版／オリエンタル・ブック・サービス／厚生社
臨川書店／Addison-Wesley／Baker & Taylor
Harper Collins／V. C. H.

冒頭に、鈴木理事長より至成堂書店・堀会長の〔ドイツ連邦共和国功労十字勲章〕受章に対する祝意と、この一年の間に亡くなられた白鷗洋書・秋山社長、国際書房服部名誉会長、三省堂書店・亀井社長、北尾書籍貿易・北尾会長及び岡田社長への弔意が表された後、大要次のようなご挨拶があった。

『先頃特別委員会より戴いた答申書をよく読ませていただいた結果先ずははっきりしたことは、縛られたくない、ということです。更に、協会の存続に関わることには前向きに協力して行きたい。そして第3点は今後の協会の在り方や我々の仕事の将来がどの様に展開するかについ

て、仲間同士がお互いに研究する機会の可能性だけは持っておきたい、ということが骨子のようなものです。経済的な論理で言えば我々のビジネスは相対的に縮小の傾向にあるでしょうが、一方ではわれわれの商売、我々が扱っている商品や情報がどのように役立つのかについては会員の皆様は確固たる自信をお持ちではないでしょうか。そのことへの需要は確実にある筈で、我々としてはしっかり応えなければならないというお考えはお持ちでありましょう。そうなれば、例えばインターネットの環境が整って来た時に我々のビジネスの形がどう変化するのか、そのような時に一緒に何か出来ないか人と話してみたいという現象がこれからかなり多くなると思います。また、我々の外の業界には随分変わった、或いは変わるだろうと思われる現象が、規制緩和をはじめ沢山あります。そういうことが我々の業界の回りで進んでいることを考えますと、JBIAについて我々が抱いてきたある種のイメージなるものは大きく変わって行くでしょうし、外の世界の色と一緒に変わって行くと考えられます。そういう中で新たな協力関係、新たな研究テーマがこれから出て来るでしょう。そのことに対してJBIAがどう迫って行けるか、が恐らくこの答申の底流にあると私は読み取りました。

協会はともあれ存続させよう、その中でいずれ来るであろうことへの構えは何らかの形で持って行こうという議論もされています。そうしたことから、緩やかな結合を基盤として協会を維持しよう、ただしそれに対して堅苦しく意味付けすることは望ましくないだろうと考えます。この答申の中の「協会活動」と「協会規約」が最終

目次

定時総会報告	1	「英語表現論」	3	出版文化史追憶—西から東—(16)	7
海外ニュース	3	文化厚生委員会だより	6	広告	8

結論に向けての理事会の議論のテーマになると思いますが、特に「活動」の中で出来ることは何か、或いは何かを実際に一度やってみることに向けて、この一年進めて行こうというのが現在の私の考え方でございます。

答申を受けてこれから始まる理事会の議論に私も加わり、私の見方が皆様方に大方一致することであればその方向で進めて参りたいと考えております。』

続いて中田理事長代理より理事会報告及び特別委員会報告があった。報告の中心は理事長がご挨拶の中でも触れられた特別委員会の議論とアンケート、それらを集約した答申書であった。またPW誌の不正確かつ恣意的な記事に対して再三にわたり嚴重抗議すると共に、訂正記事の掲載を求めた経緯が詳しく報告された。

次いで96年度中の委員会活動について各委員長より報告があった。

この後、鈴木理事長を議長として議事に入った。

1996年度決算報告

内容説明：西川総務委員長（医学書院）

監査報告：山縣（内外交易）・沼尻（三省堂）幹事
質疑応答

総会出欠の返事がない会員に対する配慮の必要性、協会活動への会員社トップの積極的関与などについて意見が述べられた後、同決算は拍手を以て承認された。

1997年度予算案

内容説明：西川総務委員長

採決の結果、拍手を以て可決・承認された。

以上で全ての議事を終了し、渡辺理事（洋販）の次のようなご挨拶を以て総会を閉幕した。

『特別委員会が実施したアンケートにより会員の皆様から出された貴重なご意見をふまえて、New JBIA がスタート出来ることを、理事のひとりとして心から願っております。私見を若干付け加えさせていただきますと「親睦」というものも大事な柱だと思います。先程関野理事から報告されましたように、またアンケートを読んでもみましても、親睦を通じて情報交換をするということに意義を見いだされている方が沢山いらっしゃいます。前向きな色々な計画と共に、もう一つの大きな柱として引き続き親睦の方も図って行きたいと思ひます。兎に角小さな協会ですから、自由競争を原則としながらも共存共栄で、是非皆さん仲良くこれからもやって行きたいと思ひます。』

約一時間半の休息後、会場を別室に移して鈴木理事長の乾杯の音頭により懇親会を開き、歓談のひとつきを過ごした。

以上



マグロウヒル社の新しいイメージ

米国マグロウヒル社は、企業宣伝キャンペーンの一環として新しく30秒のテレビ用コマーシャル・フィルムを流す。これは1995年9月にスタートした“Keeping the World up to Speed”というキャンペーンの第二段階である。

CMでは世界規模の金融サービス、出版、情報およびメディア産業という、一般生活のあらゆるシーンにかかわる複合企業としてのマグロウヒル社を強調しており、教育書籍および雑誌の出版社というものから、金融関連の情報を提供する高度なプロヴァイダーおよびビジネス書、専門書の出版社というより高い水準のイメージを印象づけるものになっている。

投資会社、株主、顧客などをターゲットにして、CMはニューヨークの三大ネットワークの週末のニュース番組や人気のテレビ・ショウ（“This Week with David Brinkley”, “Face the Nation”, “Meet the Press”, “60 Minutes” など）で放映され、また平日のニュース番組やローカル局でも流される。加えて6月には

THE WALL STREET JOURNAL や BUSINESS WEEK 誌上などでも広告が掲載される予定である。

“Global”, “Innovation”, “Access” などと名付けられたテレビCMは、世界中の人々がマグロウヒル社の商品やサービスを利用してそれぞれの分野で成功するシーンを、短いカットをすばやく積み重ねる手法でつくられている。そこではフランスの小学生が教室で勉強し、中近東の人間がテントのなかでラップトップ・コンピュータを操り、X-ゼネレーションの若者がインターネットでコミュニケーションをとっている。

CMのコンセプトは、教科書や雑誌を出版している会社というものから、世界中の人々が生活のあらゆるシーンでマグロウヒル社のサービスを受けているというふうな、特に投資会社や顧客の認識を改めるというものだ。

同社は教育、ビジネス、金融、学術、政府関連などの分野の情報提供者として第一線の会社であり、創業は1888年と古いが、最新のマルチメディアを利用してサービスや商品を市場に送りだしている。1996年の年間販売金額は31億ドルであった。

【BUSINESS WIRE/MAY 6, 1997より】

「英語表現論」の年間授業で試みたこと

—英英辞典の活用—

島岡 丘

私は期末試験にはたいい授業の感想を学生に書かせるようにしている。「英語表現論」という授業を私は昨年と今年の2年間行った。受講生の感想を紹介し学生の生の声を聞いてほしいと思う。それと同時に日本人は英語が下手だとマスコミでよく紹介され、また、それを信じている人たちが多く、教師の指導方法如何で、日本人学生が気付かずに豊かに持っている潜在力が発揮されて、made-in-Japanの英語も、やはり、世界のビジネス業界を席巻した本田、トヨタ、ソニー、TDKなどの世界一流製品同様、英語母語話者に劣らない、また英語圏外のEFL学習者に優るものになり得ることをお伝えしたい。

大学の英文科の学生は特にそうであるが、英語を自由に話したい、実際の英語を聞いてわかりたいという強い

動機があるので、それに近い授業を心掛けて元気づけてやる必要がある。学生が日本語式の発音をすると、「それでは通じない。強弱リズムと弱形(weak form)や語と語のつながりに注意して言わないとだめだよ」と注意し、かつ、発音のモデルを教師が示すこと、またそのように発音できたら十分に褒めてやる必要がある。発音をあまりうるさく言うと学生がかえって黙り込んでしまうという人がいるが、これは教師の熱意と信念の問題であると思う。

最近、英語圏の大学や大学院に留学を希望する学生が多いので、私の経験から、まず、英語で思考することを習慣づけねばならないと思った。そこで、教室では英英辞典のみを使うことに決めた。受講生の多くは英語を英語で理解する機会が与えられていなかったために、英語の単語は何千語か覚えるが、それらの意味を明確に記述できるものは極めて少ない。そこで英英辞典の定義を学習させる必要性を感じたわけである。10万語ばかりの見出し語の定義をするのに定義に使う語彙を制限してい

る英英辞書は Longman Dictionary of Contemporary English [LDCE] (1978～) と Cambridge International Dictionary of English [CIDE] (1995) である。私が心配したのは語彙制限によって基本的な概念を表し、他の語では置き換えることができない語 (primitive word)、例えば、動物の種類を表す語では、「哺乳類」(mammal) が入っているかとか、方向を表す語、horizontal, vertical など、また、ことばを理解し説明するのに要することば (例: auxiliary, determiner, infinitive など) が含まれているかどうかであったが、CIDE にはその配慮があり、しかも定義語の全語彙数が 2000 語以下だったので、思い切って全員に CIDE を持たせることとした。

授業ではまず定義語の説明から始めた。名詞のある語を定義する時は、その語の範疇語、または意味領域の上位語、続いて他の語と区別する特徴、最後にそのものの社会的機能を言うといひ、と説明し、key と breakfast を例にあげた。CIDE の定義は次のようになっている。

key: a piece of metal that has been cut into a special shape for locking a door, starting an engine, etc.

breakfast: a meal eaten in the morning as the first meal of the day.

すると、学生が目が輝いた。物質には a piece of を用いるとよいこと、食事は meal が共通語であり、これを覚えたら、lunch も supper もすらすら定義できることを悟った。学生の 1 人に、lunch の定義をするように指示すると、全く同じ文型を用いて、a meal eaten at noon as the second meal of the day (CIDE は a meal eaten in the middle of the day となっている) とした。supper も同様に定義した。続いて、dinner の定義を調べさせると学生は dinner は時間に関係がなく 1 日で最も豪華な食事のことであることが次の定義で納得する。"the main meal of the day." また、地域によってそれが夕方であったり、昼間であったりすることが明らかになる。"In Britain, some people use dinner to refer to the meal that they eat in the evening, and others use it to refer to the meal that they eat in the middle of the day."

それから何日かして筑波に隕石 (= meteorite) が落ちたので、それをどう表現するかを聞いてみた。英英辞典を使わない学生たちは隕石のことを誤って、a stone

from heaven などとするかもしれないが、CIDE を使っている学生は、a piece of rock from space that has landed on Earth を抵抗なく受け入れた。実際、日本人が英語の表現が苦手なのは a piece of とか、meal とか、説明力のあることばを教わっていないせいではないかと思う。container ということばを活用することで、cup, mug, bag, packet, carton, jar, tub, crate, barrel, can/tin, pot, pan などの説明が極めて容易になる。

実際の授業のやり方は講義式ではなく、workshop 形式とし、学生を黒板に自分の選んだ単語の定義文を書かせ、他の学生に当てさせるというクイズ形式を取り入れた。黒板に書いた定義文は各自の「作品」ということとし、その「作品」をリズムカルに音読させた。リズムが日本語式になっている場合は一人一人みんなの前で注意し、リズムカルに音読できるまで繰り返させた。英語を英語として発音できない場合はみんなの前で恥をかくのだということを徹底させた。

これが厳しすぎるということで脱落した学生はわずか 2 名だけで受講生は熱心に英語らしい表現ができるように努力したようである。

後期は例文を黒板に書かせ、その意味の案内版 (guide word) を当てさせることとした。例えば、accommodate を使った例文を用いて、それぞれの guide word を聞くのである。

◆New students may be accommodated in halls of residence.

◆Some find it hard to accommodate themselves to the new working conditions.

最初の例文の accommodate は "find a place for" の意味であり、後の方は "suit" である。

以下、学生の感想文である (本文のまま、要点のみ)。
◆今迄私が中高大と英語を学んできた中で出来上がった「英語教育」に対する固定観念を壊すような授業でした。英語に対してこれ程楽しく、また考えて授業を受けたのは久しぶりのような気がします。

◆この講義では、今まで自分が 8 年間学んできた英語について、また新たな英語への見方というものが身についたと思います。

◆今までの授業になかった発音について多く学ぶことができた。カナで発音を書くなど、非常に画期的で、レベルの高い他の授業よりも進んだ英語の勉強の仕方だと感

じながら聞いた。

◆この授業を通して、いかに自分が伝わりにくい英語を話していたかを痛感させられました。……リズムをつけて発音すると単語も覚えやすいし、文章においては相手に聞き取りやすくなることも学べました。

◆英語の発音、辞書の使い方など興味のある分野を発見することができました。これらは卒論のテーマへとつながっていくことと思います。

◆毎回毎回興味深いものだったし、楽しかったです。小さい子どもに「カギってどんなの?」と聞かれたりしたときにも、曖昧でなく、ハッキリ教えてあげられる自信があります。これからも、CIDE でそんな授業を続けていってくださると、喜ぶ学生たちが絶対いると思います。

◆比較的、難しい授業内容であると思ったが、進めていくうちに英語の深さの再発見ができよかったと思う。

◆定義語のおかげで前よりは表現力が身についたと思う。

◆英語の視野が広がった講義でした。

◆こんな風に辞書を活用すると英単語も楽しく自然に頭の中に入り込んでくるんだなと思い、大変感心しました。沢山の人のこの辞書の楽しさを知ってほしいです。

◆この授業を履修していかに自分が日本式の英語を発音していて平気だったかを気付かされ、直すのにとても苦労しました。毎回毎回先生のご指摘を受け、自信をなくしたこともありましたが、でも、今まで使っていた英語の辞書だけでは学べないような様々な内容を学び、とてもためになったと思います。

◆想像していたよりも辞書に親しむことができたように思えます。英英辞書だと生きた英語としてとらえることができました。

◆英英辞典には英和辞典よりもわかりやすい部分があったりして驚きました。

◆英英辞典は最初は難しそうで避けていたのですが、(時間がある時は)なるべく他の授業の予習などにも使い始めました。英和辞典を使うよりは頭に残っている気がします。

◆前期ではよくわからなかった読み方、発音が後期は少しずつですができるようになりました。この授業で学んだことはすべての授業につながると思います。前よりも英語を学ぶことが楽しくなり、もっと学んでいきたいです。発音がどれだけ重要かがよくわかりました。

◆いろいろな角度から英語表現について学べて本当に自分のためになったと思います。また自分の英語力のなさ

に気付かされ、もっと学習しなければと思うようになりました。

◆英語をただ読むのではなく、正しい発音に注意しながら英語を発音していきたいと思う。

数年前から筑波大学で学生による大学教官の教育評価という制度が実施されのがきっかけで、本学でも授業の点数、感想のほかに、授業計画、使用テキスト、評価方法などを大学当局に提出している。

学生の感想を読んで私の授業はいくらかはためになったのではないかなと思う。私自身も学生の時ずい分と教えられたものだ。COD を用いて下調べをしないとついでいけない広瀬泰三先生の英語演習、テキストの深い読みとイギリスの文化背景を教えていただいた R. H. Blyth 先生の英文学講義など、訳読だけで終わる授業は皆無であった。機会を見て Blyth 教授の講義などをご紹介します。 (茨城キリスト大学教授)

(茨城キリスト大学教授)

JBIA DIRECTORY 1997

— 4 月下旬出来 —

(洋書輸入協会ダイレクトリー1997年版)

25.7×18.2cm 290頁 会員価格 2,500円

(送料共)

一般価格 4,500円

(")

海外価格 8,000円

(航空便送料共)

フォーティラブ春季合宿

花と緑いっぱいの津久井湖畔プチビラでのテニス大会は、20名をこえる参加者を得て4月12日に開催されました。

例によって、前日の夜は、西沢会長はじめ幹事を中心に、酒の好きな美女、けったいなおっちゃんも混り、仕事をはなれた楽しい語らいの場となりました。

毎年この時期は桜の園での大会となるところが、地球の温暖化の影響もあり満開の桜は一週前の雨で少なくなっていました。当日は快晴に恵まれ「花よりテニス」と、夕刻まで時を忘れるひとときとなりました。

現役は引退されたばかりですが、パワフルなテニス健在の出口さん（元マクミラン）、運動神経の良さと高度なテクニックを追求される幹事役の一人柴田さん（東光堂）、うちの女房は他の男性とは組ませないとばかり抜群に意気の合ったコンビぶりを発揮される皆川御夫婦ペアー（HBJ）、相変らず面が合って美しいバックハンドのお手本を示される西沢会長（医学書院 MYW）、いつもバイクでさっそうと登場の鈴木さん（洋販）など多士

済済。

テニスの合宿は遅咲きの桜やツツジ、コートに金網に巻きつくアケビの花などを眺めながらの散策、又ツクシンボやセリなどの山菜採りを楽しむ室伏さん（丸善）の姿もありました。

プチビラでの食事もしみの一つ、朝食のデザートにはヘルシーな二種類のケーキが出てびっくり、お昼は野草などの天ぷらにざるうどん、打ち上げの夕食には清流の魚や山菜など手づくりの料理に大満足でした。

この間フォーティラブのテニス合宿には過去5回で延べ120名の参加者を数え、JBIAの文化厚生活動の中でも目立つ存在です。会報にも写真が載り過ぎるとクレームが出ているとのうわさもありますが、果して今回はどうなるでしょうか？

フォーティラブでは、ビジネスの話は一切ご法度、遊び心に徹するという会長さんの哲学が浸透しているからこんなに気楽に参加出来、長続きしているのではないかと思います。

最後に欲を言わせてもらえば、少々高齢化が進みつつあるようなので出来れば今後は若い層（特に女性は歓迎）の積極的な参加に期待したいと思います。以上

〔阪根・記〕

第83回 72回ゴルフコンペ

東京バーディクラブ 1997. 4. 22（火）

緑豊かな青梅丘陵。鮮やかなピンクの花水木。八重桜、少し早いがつつじと花に囲まれた美しいコース。雄松堂の新田さんのホームコース東京バーディクラブは素晴らしいフェアウェイ、手入れの行き届いたグリーンと申し分なく好スコアが期待されました。雨が心配される予報でしたが、スタートに合わせるかのように小雨も止み、まずまずの天候の中、15名の強者（？）が熱戦舌戦を繰り広げ、そして親睦を深めました。

優勝は三善の斎田さん。遊ぶ方は得意とおっしゃりながら、ゴルフはもっと得意と許りに43. 43の見事なスコアで、ベストグロスも併せて獲得されました。2位は雄松堂の新田さん。コース、グリーンを熟知され、皆さんへの気配りも忘れず、そして2位入賞はさすがでした。3位は、練習しなくて力が抜け、ボギーベースのいいゴルフが出来たと東京ブックランドの山田さん。2本のニアピンも併せて獲得され見事でした。久しぶりの参加の「飛ば

し屋」UPSの川原さん。気負ってOBが多かった、今回は飛ばないドライバーを持ってくるとのコメント。表彰式そして和気あいあいの賑やかなパーティー。文化厚生委員長のトップランの関野さんのスピーチ。幹事の東亜ブックの鶴さんの愉快なスピーチで楽しいゴルフコンペも無事終了となりました。

成績表	G	HC	NET
優勝 斎田利幸（三善）	86	11	75
2位 新田満夫（雄松堂）	93	15	78
3位 山田勝彦（東京ブックランド）	102	24	78
4位 西山久吉（西山洋書）	97	16	81
5位 中林三十三（日貿）	91	9	82

ベストグロス 斎田利幸（三善） G86

ドラコン 豊泉弘（大洋交易）村上道夫（東京ブックランド）中林三十三（日貿）斎田利幸（三善）
ニアピン 山田勝彦（東京ブックランド）新田満夫（雄松堂）山田勝彦（東京ブックランド）

〔HN記〕

英語辞書の歴史—ジョンソン・ウェブスター・OED—(7)

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆ウェブスター『アメリカ大辞典』の誕生

ウェブスター辞典の嫡流は、現在『インターナショナル・ディクショナリー第3版』として知られているが、その直系の祖は1828年に刊行された『アメリカ大辞典』(An American Dictionary of the English Language)である。辞書の代表として今日アメリカで不動の名声を得ているが、ここに至るまでの道程は決して順調であったわけではない。ウェブスター辞典の誕生とその歴史を少したどってみることにしよう。

『簡約英語辞典』が完成するや、すぐに「大辞典」の編纂に着手した。この辞書を製作するための資金として10ドルの予約金を集めようと計画したがうまくいかず、生計費削減のためそれまで住んでいたニューヘブンからアマーストの片田舎に転居を余儀なくされたことなど、ウェブスターにとって経済的圧迫の克服が先ず大きな課題であった。彼はこのアマーストで1912年から1922年までの10年間を過ごし、その後再びニューヘブンに移ったのであるが、辞書編纂の作業の大きな部分はアマーストで行われた。余談になるが、このアマースト時代に彼は辞書編纂作業のかたわら果樹園を経営したり、著作活動をしたり、その上マサチューセッツ州議会議員や治安判事を勤め、またアマースト大学の設立にかかわるなど、広い分野で驚くべき精力的な活動をおこなっている。

さて、彼の新しい辞書の編纂は、当初ジョンソンの辞書を底本にして、それを修正加筆し語彙の追加などを行う程度の考えでスタートした。かねてからウェブスターはジョンソンの辞書に誤りが非常に多いことを指摘し、その中でも特に語源に厳しい批判を行っていた。それにもかかわらずこの辞書を土台に使用したのは、やはりこの時代最高の辞書であったことによるものであろう。しかし、A. B. の項まで進んだ段階でもっと本格的な取り組みの必要性を痛感し、特に語源について充分な参考資料を得られないことが分かり、自ら研究することを決意した。そして編纂途中であったにもかかわらずそれを中断し、10年をかけて約20カ国語を学び、各言語の比較研究を通して語源の探求を行った。

結局この辞書は20年の歳月を費やして、1828年ウェブ

スターの70歳の誕生日に最後の校正が終了したのであった。ウェブスターの伝記研究家ウォーフェルは、ウェブスターが世間の軽蔑・侮蔑・誤解を聞きながら、また罵詈雑言を浴びせられながら、それに屈することなく独力でアメリカ最初の学問的金字塔を築き上げた、と記していることや、またウェブスター自身の回顧録に見られる「最後に一語だけ残ったとき、私はからだが震えて、ペンを握って書くことが困難だった」という述懐を読むとき(稲村松雄『青表紙の奇蹟』)、彼の事業が並大抵の苦難でなかったことが想像されて余りある。

こうしてこの辞書は、大判革装の2巻もので出版された。収録語数(見出し語)は7万語で、ジョンソンの初版が4万語、ヘンリー・トッドの改訂版(1818年)が5万語だったので、それをしのいで最大の辞書となった。特に科学技術や神学関係の用語を取り入れたことが特徴であり、また例えば、“Newtonian”のように固有名詞からの派生語も収録した。さらに、彼が力説したほど多くはなかったが、“congress”(国会)、“plantation”(大農園)、“land-office”などといったアメリカで生まれ、アメリカで用法が変化した語も収録された。

ウェブスターは語の定義において特別の才能を示し、この点ではジョンソンより優れていた。語義は詳細かつ明解で、細分して定義した。そのため裁判所、立法府、大学、大会社などは、用語の定義をこの辞書に依存するようになったという。特に法律家だった関係で、法律に関する語の定義は法律辞典の用語解説のように厳密だったようである。しかし、ウェブスターは全面的に語義を創作したり書き換えたわけではなく、実際にはかなりの数の語義をジョンソンより借用した。

また、ウェブスターはジョンソンが大量の用例を盛り込んだことに批判的で、自分の辞書にはあまり引用文を掲載しなかった。しかし反面、ジョンソンの中から出典の明らかな用例を借用したものもあり、また、アメリカの著述家フランクリン、ワシントン、アダムズなどの文章や聖書から、独自に選定した用例も多数採録した。

〔参考図書：シドニー・ランドウ著『辞書学のすべて』／稲村松雄『青表紙の奇蹟』〕

Announcing a new journal from Gordon & Breach....

Enantiomer

A Journal of Stereochemistry

European Editor in Chief: Volker Schurig, Universität Tübingen, Germany

American Editor in Chief: Chris Welch, Regis Technologies Inc., USA

Japanese Editor in Chief: Nobuyuki Harada, Tohoku University, Japan

Associate Editors: Alex F. Drake (UK) · Hiroyuki Nohira, Saitama University (Japan) · Yoshio Okamoto, Nagoya University (Japan) · William H. Pirkle (USA) · James P. Riehl (USA) · Arlette Solladié-Cavallo (France)

光学活性分子、すなわち「エナンチオマー」は化学、生物学および最近の機能物質科学において重要である。種々の分子機構にもとづく不斉認識とエナンチオマー分割、不斉補助基と不斉試薬あるいは不斉触媒を用いたキラル合成、酵素あるいは微生物を用いたエナンチオマーの生成、生体系代謝におけるエナンチオマーの識別、生物活性と絶対立体化学、機能性キラル物質、さらに種々の機器分析法（X線、CD、NMRなど）によるエナンチオマーの純度および絶対立体配置あるいは絶対立体配座の決定など、エナンチオマーに関する研究成果の情報を発信する。

6 issues per vol · ISSN: 1024-2430 · 英文ジャーナル

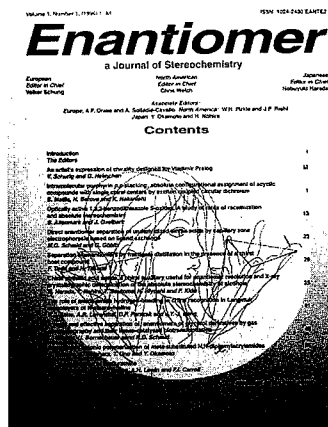
予約受付中: Volume 2 (1997)

予約購読料: ¥46,000

大学(図書館・研究室)購読料: ¥41,000

(ONLINE/CD-ROM付別途料金有)

個人購読料: ¥15,000 (ご自宅送り)



無料見本誌をご請求下さい

A Selection of Papers

S. Habaue, K. Shiohara, T. Uno, Y. Okamoto: Asymmetric anionic polymerization of meta-substituted N, N-diphenylacrylamides · A.T. Morehead, R.A. Reges, A.H. Lewin, F.I. Caroli: On the resolution of Fenfluramine · F. Toda, H. Takumi: Separation of enantiomers by fractional distillation in the presence of a chiral host compound · N. Harada, H. Ono: Absolute stereochemistry of [6.6]vespirene family compounds as determined by the X-ray crystallography · G. Helmchen: Glossary of problematic terms in organic stereochemistry · V. Schurig: Terms for the quantitation of a mixture of stereoisomers

*記載の価格には消費税は含まれておりません。お問い合わせ、見本誌のご請求は下記まで。

Gordon & Breach Publishers



Australia · Canada · China · France · Germany · India · Japan ·
Luxembourg · Malaysia · The Netherlands ·
Russia · Singapore · Switzerland ·
Thailand · UK

日本総代理店
YOHAN

営業本部 STMグループ

〒169 東京都新宿区大久保3-14-9

電話 03-3208-0186(直通) FAX 03-3208-5308

1997年5月

通巻第360号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本総合印刷株式会社